みやぎの多面的機能支払交付金

ぐるみ

高めよう 地域協働の力！

令和元年度 第2号

第６回みやぎのふるさと農美里フォトコンテスト入賞作品（撮影場所：大崎市）

～ Contents ～

◆ 協議会からの情報提供
- 活動支援研修会の開催
- 東北農政局による抽出検査
- 宮城県農村振興施策検討委員会による現地調査
- 多面的機能支払交付金全国研究会が開催　ほか

◆ 活動組織の事例紹介
- 寒風沢区地域保全会〔塩竈市〕

◆ お知らせ
- 「農村ふるさと保全通信」について
- パネル展示によるＰＲについて

多面的機能支払に係る活動支援研修会を開催

７月２４日から８月９日にかけて、宮城県内で多面的機能支払交付金の活動に取り組んでいる活動組織を対象に、『多面的機能支払に係る活動支援研修会』を８会場で開催いたしました。

県内９９０組織中８６２組織、今年度は関係者も含め２,１８６名のご参加をいただきました。

研修会では、「多面的機能支払交付金」の事務や活動が適正に行われるよう、制度の改正点や円滑な組織運営のためのポイントについて、新規組織や新しく担当となった方々にも分かりやすい内容で説明したほか、農地維持支払交付金の活動要件ともなっている「地域資源の適切な保全管理のための推進活動」や今年度に事業計画の終期を迎える組織の要件である「地域資源保全管理構想」の策定方法について研修を行いました。

～研修内容～

（1）活動に関する事務等について
（2）活動の実施等について
（3）地域資源の適切な保全管理のための推進活動について
（4）組織の運営等について
（5）抽出検査・中間確認等について

活動支援研修会の様子

また、今年度は加美町の「中新田バッハホール」及び大崎市の「鎌田記念ホール」において、『大崎地域世界農業遺産』に係る講演を行いました。講師として、宮城教育大学小金澤名誉教授と宮城大学加藤名誉教授をお呼びし、「地域資源の適切な保全管理について～大崎地域世界農業遺産の施設保全管理について～」をテーマとして、それぞれご講演をいただきました。

宮城教育大学　小金澤名誉教授

宮城大学　加藤名誉教授

研修会でのポイント

・令和元年度からの主な改正点

① 加算措置の拡充
② 対象農用地の拡大
③ 施設の長寿命化にかかる工事１件の上限額の設定
④ 事務負担軽減を目的とした申請・報告様式の見直し

・円滑な組織運営のためのポイント

① 構成員の合意形成をしっかりと行う
② 役員の行う事務はお互いに確認し合う
③ 日当は参加者本人に受領を確認する

・活動における留意事項

・組織毎に取り組む活動内容が異なるため、活動計画書や各解説をしっかり確認すること
（市町村から認定されていない活動については実施できません）
・面積の減少などの変更が生じた際は速やかに市町村に相談し、変更手続などの事務処理を行うこと
・「地域資源の適切な保全管理のための推進活動」は『資料』や『会議録』を作成し保管すること
・今年度活動期間の終期を迎える組織は「地域資源保全管理構想」を策定すること
・活動作業時の安全確保を確実に行い、傷害保険や賠償責任保険に必ず加入すること

東北農政局による抽出検査

８月２６日と２７日、資源向上支払（施設の長寿命化）に係る東北農政局の『抽出検査』が行われました。今回は大崎市、栗原市の２市の活動組織６組織が検査の対象となりました。

組織ごとに、書類と現地の施工状況について検査が行われ、書類検査では、施設所有者等との工事の事前確認状況、施工業者からの見積りの徴収方法（注文内容や仕様）、契約書の内容、受入確認の方法、財産譲渡の状況、通帳や金銭出納状況、総会の議決や周知状況などについて確認が行われました。

現地検査では、契約書や実施状況報告書との差異がないか実測を行うとともに施工状況の確認が行われました。

※　施設の長寿命化に係る活動を行う際には、市町村から認定を受けた活動計画書の活動内容に基づき、所有者または管理者との協議を行い、市町村等からの指導や助言を受け、安全に配慮して施工する必要があります。

現地確認の様子

書類確認の様子

宮城県農村振興施策検討委員会による現地調査

１０月２９日、『農村の振興のための施策に関する調査審議』のため、宮城県農村振興施策検討委員会の委員の方々が、多面的機能支払交付金事業や中山間地域等直接支払交付金事業などの組織の活動状況の現地調査や意見交換を行いました。

多面的機能支払交付金事業では、平成２８年度活動組織優良表彰制度で『地域の結い・絆賞』を受賞した栗原市の『大館環境保全会』を訪れ、現地での活動状況を視察した後、委員や活動組織の役員の方々と取り組みによる効果や地域の交流活動への広がりなどについて活発な意見交換が行われました。

土地改良区役員研修会で広域化や事務受託について説明

１０月３０日から３１日にかけて、水土里ネットみやぎ（宮城県土地改良事業団体連会）が主催する『令和元年度土地改良区役員研修会』において、多面的機能支払交付金に係る土地改良区の事務受託の事例や組織の広域化などについて、県や協議会から説明を行いました。

土地改良区役員研修会は、宮城県内の土地改良区の理事や監事を対象に毎年度開催されるもので、今後の多面的機能支払交付金活動への理解向上と土地改良区への協力を求める機会として参加しました。

土地改良区役員研修会の様子

『中間確認』後の対応について

１０月以降、活動組織を対象に各市町村において指導、助言を行う『中間確認』が実施（又は終了）されているところですが、中間確認で指摘、指導を受けた事項については、速やかに改善してください。

中間確認の様子

多面的機能支払交付金全国研究会が開催されました

１１月７日、東京都千代田区「一橋大学一橋講堂」において、農林水産省農地資源課多面的機能支払推進室、関東農政局、全国水土里ネット多面的機能支払促進協議会主催による『多面的機能支払交付金全国研究会』が開催されました。

当日は、地方公共団体、推進組織の担当者等関係者約５００名が参加し、農林水産省農村振興局整備部農地資源課多面的機能支払推進室の長山室長より、「多面的機能支払交付金の５年間の取組と効果」と題して基調講演があり、その後、一般財団法人 日本消費者協会 理事 河野氏より「消費者が日本の農業に期待すること」と題して基調講演が行われました。

全国研究会　会場の様子

また、それぞれのテーマに沿って２つの活動組織により事例発表が行われました。最後に、「女性の活躍による地域コミュニティの活性化」をテーマにパネルディスカッションが行われました。

【事例発表】

◎ テーマ１　「女性役員の活躍による活動の広がり」
青森県十和田市 奥入瀬川沿岸地域保全広域協定

◎ テーマ２　「活動の円滑な推進に向けた土地改良区の役割」
島根県出雲市 出雲市斐川農地・水・環境保全管理協定

【パネルディスカッション】

◎ テーマ　「女性の活躍による地域のコミュニティの活性化」

●コーディネーター：宇都宮大学 名誉教授 水谷氏
●パネラー：奥入瀬川沿岸地域保全広域協定 十和田土地改良区 福田氏、宮内氏
出雲市斐川農地・水・環境保全管理協定 出雲市斐川土地改良区 杉谷氏
ミヤコタナゴの里環境保全会 農業女子プロジェクトメンバー 西岡氏
大宮町広域協定運営委員会 川口氏

パネルディスカッションの様子

☞ **事例研究会の開催報告や資料については、農林水産省のホームページに掲載されています。**

http://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/tamenn_kennkyukai19.html

多面的機能支払メールマガジン「農村ふるさと保全通信」に活動組織のインタビュー記事が掲載されました

１２月９日に配信された多面的機能支払メールマガジン「農村ふるさと保全通信」第７７号に、大崎市の活動組織「志田谷地地域環境保全組合農地・水・環境保全管理協定」の代表者インタビュー記事が掲載されましたので、一部抜粋してご紹介いたします。

■組織

大崎市鹿島台に位置し、北に鶴田川、南に吉田川が流れる水田地帯を拠点に活動。
活動範囲は、田 252.0 ha、水路 46.0 ㎞、農道 26.3 ㎞。
平成 19 年度に設立、その後、平成 23 年度に広域化を図り現在に至る。

会長　板垣氏　　会計　武藤氏

■インタビュー内容

Q：どのような経緯で組織を立ち上げられたのでしょうか。

A：　本組織は、平成 19 年度の「農地・水・環境保全向上対策」制度のときに立ち上がりました。昔は農業集落には当然のようにあった「ゆい（結）」の精神。多大な労力と時間を要する作業は、集落のみんなが総出で助け合って行う。近頃、そんな「ゆい」の精神が薄らいできたと感じていた矢先、共同活動を基本とする本制度ができると聞いて先代の会長が奔走、組織を立ち上げました。平成 23 年度には広域化を図り現在に至っています。

Q：組織を運営する中で苦労したことはありますか。

A：　組織の代表としては、役員スタッフに良い人が多いため、運営上で苦労したと感じたことはありませんが、これまで運営を行ってきて、役員スタッフ同士の連携が非常に重要であることは実感しています。これがうまくいっていれば、組織も活動もうまくいくと考えています。やはり人と人との繋がりが重要であるということでしょうか。

　また、運営の話とは別になりますが、組織活動の面から感じることは、若い人たちの参加率が低くなってきていることです。構成員には勤めに出ている方も多くおり、特に働き盛りの若い人たちの参加が減ってきていることが気がかりです。

Q：代表（役員）として心がけていることはありますか。

A：　先の質問で若い人たちの参加が減っていることが気がかりとお話しましたが、代表としては、構成員が「参加して良かった」と思って頂けるような活動づくりをしていくことが、自ずと参加率向上に繋がるものと考えています。一方で、本交付金の活動は農地や農道等の管理に直結するものであるため、せっかく参加して頂く構成員にも、しっかりとした作業を行っていただくよう指導する必要があります。言葉は悪いですが、アメとムチのバランスには苦労しているかもしれません。併せて、活動中に怪我がないように安全管理には十分気をつけています。

Q：活動を行って良かったことはありますか。

A：　水路や農道等の保全活動を構成員が集まり、みんなで行うことで、コミュニティ・交流が生まれ、更なる活動への原動力となっています。最近は活動外ではありますが、作業後の懇親会も増えているようです。構成員間の交流が増えたことが、活動をして一番良かったことと感じています。

Q：組織強化について取り組んでいることはありますか。

A：　役員選出については、各集落の代表役員等から事前に次の役員に目星を付け、声がけをしております。広域組織であるため、比較的構成員の人数も多いため、現時点において役員選出で苦労はしていません。広域組織のメリットかもしれませんね。一方で組織の強化・活性化のためには若い人を役員に選出し、若返りを図ることも重要と考えています。そのため、日頃から若い人たちとコミュニケーションを図るよう意識しています。

寒風沢区地域保全会〔塩竈市〕

地区概要

取組面積：39.9ha（田 23.9ha，畑 16.0ha）
資 源 量：開水路 1.7km　パイプライン －km　農道 1.0km　ため池 －箇所

平成 30 年度交付金

農地維持支払交付金	939,600 千円
資源向上支払（共同活動）交付金	－千円
資源向上支払（施設の長寿命化）交付金	－千円

地域の概要

寒風沢区は塩竈市にある面積１．４５㎢の浦戸諸島最大の島で、塩釜港から市営汽船にて時間距離４６分を要する場所にあります。東日本大震災により農地が津波被害を受け、災害復旧をしておりましたが、平成３０年３月に農地復旧が完了しました。

取組みの概要

活動組織は寒風沢島の行政区で設立し、農業者、非農業者等の構成員により農地、農道、水路の保全維持活動を行っています。

基本的な活動は農道・水路の草刈り、水路の泥上げなどを住民全体で実施しています。

足場の悪い場所などは別の日に若手住民のみで作業を行うなど手分けをして活動をしています。

取組みによる効果

本事業に取り組むことで、農家・非農家を問わず地区として農地について話し合う機会が生まれました。また、共同作業を通して地区全体の団結力がより一層高まりました。

今後の課題

寒風沢区では高齢化率が７０％を超えており、住民の高齢化が深刻な問題となっているため、体力の面からも活動の継続が厳しい状況となっております。離島のため他地域との連携も難しく、今後の活動には若手住民のさらなる協力が必要だと考えています。

その他

災害復旧後の農地には地力がなく、雑草もほとんど育たない状況であったため、対象区域の南側に菜の花を植栽し、景観形成活動を行っています。菜の花は見栄えもよいため観光資源としての効果も期待しております。

今年いらした観光客からは「海と菜の花の両方を楽しめる」と好評でした。

草刈り
作業風景

総会の様子

菜の花の植栽活動

協議会からのお知らせ

「農村ふるさと保全通信」とは？

今回広報誌に掲載したインタビュー記事は、農林水産省農村振興局整備部農地資源課で作成されているメールマガジンより引用したものです。
多面的機能支払の活動組織の紹介などの情報が配信されています。

☞ **メールマガジンの詳細及び配信登録等につきましては、農林水産省ホームページに掲載されています。**

http://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/tamen_siharai/nouson_furusato_hozen/index.html

活動中の事故について

宮城県内において、活動中の事故が多数報告されています。
事故の多くが草刈り作業中に発生しており、事故の原因として考えられるのが「作業環境の確認不足」です。
活動中の事故を未然に防止するため、農林水産省が作成している「共同活動の安全のしおり」等を参考に、事前に活動場所の下見を複数名で行い、危険な箇所（急傾斜地、窪地やぬかるみ、段差、狭小地、急流の水路、危険物、危険な動植物等）のチェックを行い、危険物の除去や危険箇所をわかりやすく表示しましょう。

◆ 農村振興リーダー研修でパネル展示

１１月１２日から１３日にかけ、仙台市青葉区の宮城県土地改良会館において開催された『令和元年度農村振興リーダー研修（主催：全国農村振興技術連盟）』の待合ロビーにおいてパネル展示を行い、宮城県内の多面的活動組織の活動についてＰＲしました。

パネル展示の様子

広報誌　ぐるみ（令和元年度第２号）　令和元年１２月発行

宮城県多面的機能支払推進協議会
〒980-0011
仙台市青葉区上杉二丁目２番８号（宮城県土地改良会館内）
TEL　022-263-5829　　Fax　022-268-6390
ホームページ　http://www.nmk-miyagi.org/
E-mail　info@nmk-miyagi.org